

# 令和3年度「教職員の働き方改革に係る意識等調査」の結果について【概要】



令和4年2月9日  
千葉県教育庁教育振興部教職員課  
電話 043-223-4063

令和3年12月に実施した「教職員の働き方改革に係る意識等調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。また、併せて同年11月に実施した「教員等の出退勤時刻実態調査」とクロス集計し、分析しましたので、その概要についてもお知らせします。

この調査は、「学校における働き方改革推進プラン（令和3年3月改定）」で示した教職員の意識に係る目標の達成状況を把握するだけでなく、教職員の総労働時間の縮減のために教職員の意識改革をどのように図っていくかを明らかにするために実施したものです。

## 1 調査方法等

### (1) 調査時期

令和3年12月現在の状況

### (2) 調査対象校

県内の公立小学校35校、中学校15校、高等学校15校、特別支援学校5校を抽出し、合計70校で実施。

### (3) 調査対象教職員

調査対象校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、実習助手、講師（※有効回答数2,169名）

### (4) 調査の実施方法

各学校から県教育委員会へ、Web入力により直接回答する。

## 2 調査結果の概要（グラフ内数値は小数点以下を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合がある。）

- 平成30年7月に第1回調査を開始して以降、今回は第7回調査となるが、「子供と向き合う時間を確保できている割合」は64%（前年度比7ポイント減）、「勤務時間を意識して勤務できている割合」は79%（前年度比5ポイント減）であった。
- 「学校における働き方改革推進プラン」で定めた令和3年度の数値目標（「子供と向き合う時間の確保」80%以上、「勤務時間の意識」95%以上）には達しておらず、業務改善のための検証が必要である。
- 学級担任や部活動顧問主顧問といった校務分掌は、多忙感と大きな相関がある。
- 調査・報告による負担と、人材の確保について、部活動の負担が各校種ともに業務改善には必要であると感じている職員が多い。

### (1) 調査結果の推移

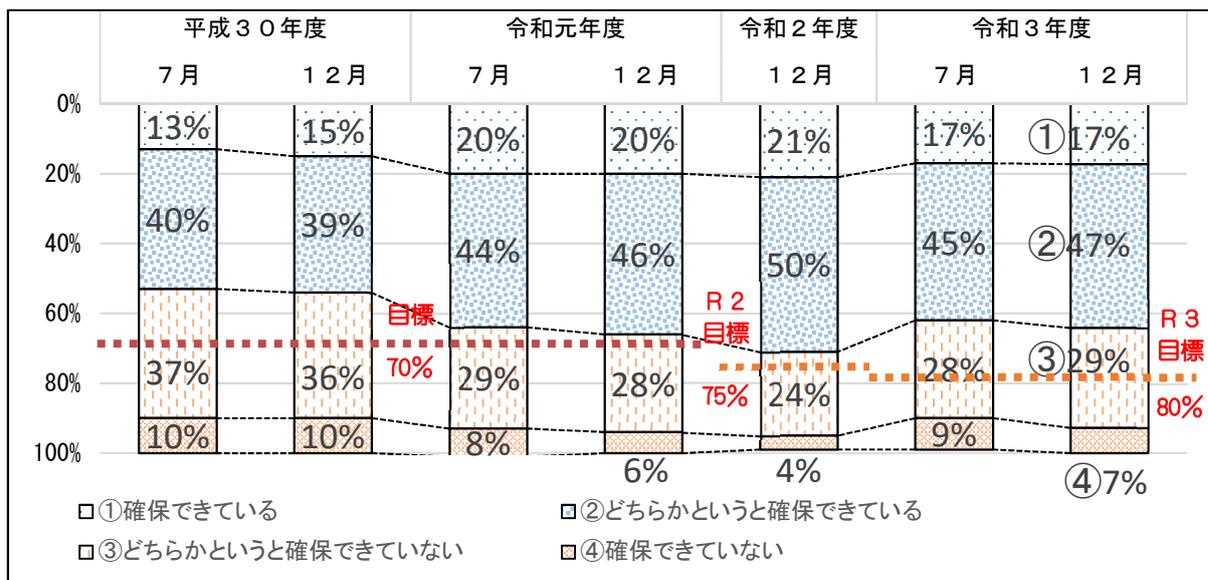
調査時期	子供と向き合う時間を確保できている	勤務時間を意識して勤務できている
<b>R3.12月</b>	<b>64%</b>	<b>79%</b>
R3. 7月	63%	79%
R2.12月	71%	84%
R元.12月	66%	75%
R元. 7月	64%	71%
R30.12月	54%	64%
R30. 7月	53%	63%

## (2)「学校における働き方改革推進プラン」の目標達成状況

### ①子供と向き合う時間が確保できている教職員の割合（※データ編P4参照）

(※) 子供と向き合う時間とは、休み時間や放課後等において、子供たちに補習したり、遊んだり、相談にのったりする時間をいう。

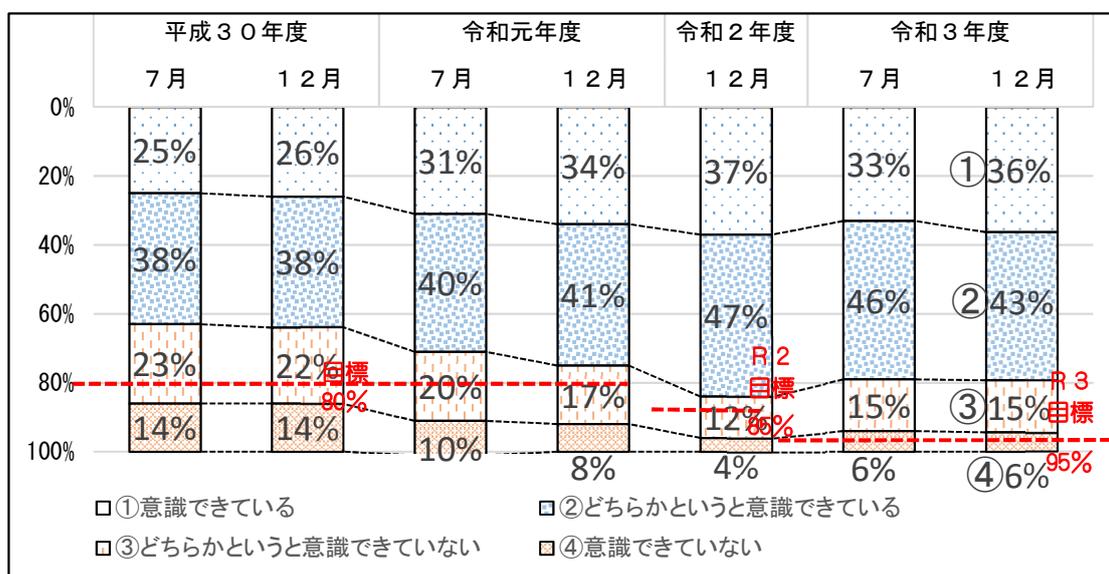
子供と向き合う時間が確保できていると肯定的な回答をした割合は64%であり、令和3年7月調査の63%（合計数値を四捨五入）から約1ポイント上昇したが、昨年度同月比のR2年12月からは、約7ポイント下降した。令和3年度の目標値には、約16ポイント足りなかった。コロナ禍の影響で、調査月である11月に修学旅行や校外学習などがずれ込むなど、例年よりも業務過多となったためといえる。（資料A）。



資料A 子供と向き合う時間が確保できている教職員の割合（全校種：全職種）

### ②勤務時間を意識している教職員の割合（※データ編P5参照）

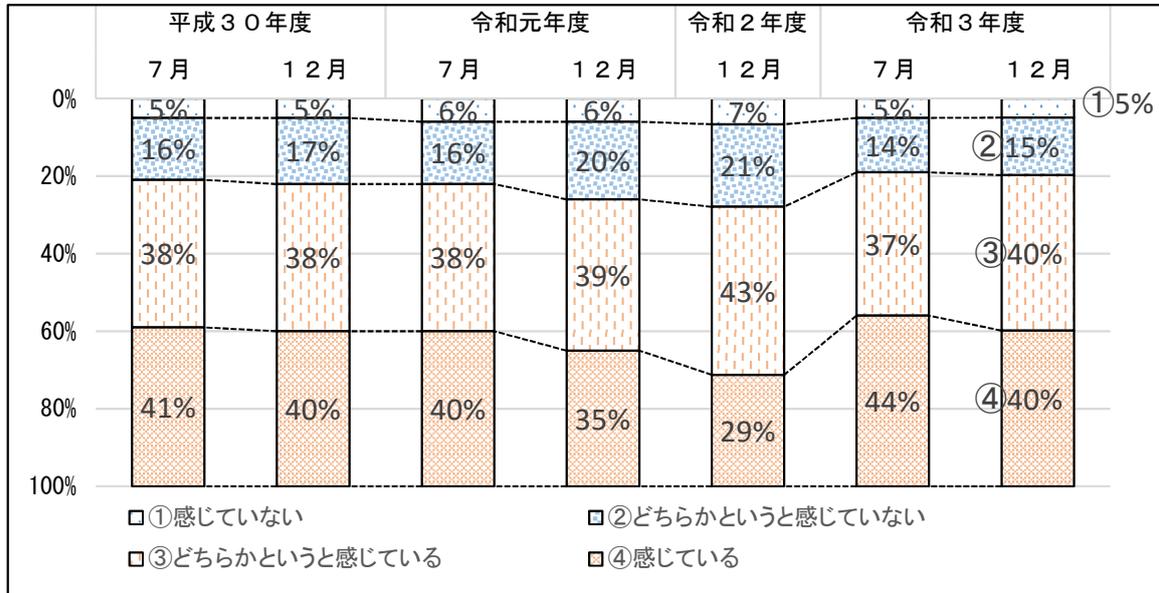
勤務時間を意識して勤務することができていると回答した割合は79%であり、令和3年7月調査と同じであったが、昨年度同月比では、5ポイント減となった。令和3年度の目標値には、約16ポイント足りなかった。（資料B）



(3)「学校における働き方改革推進プラン」の目標達成状況

①業務に「多忙感」を感じている割合（※データ編P6参照）

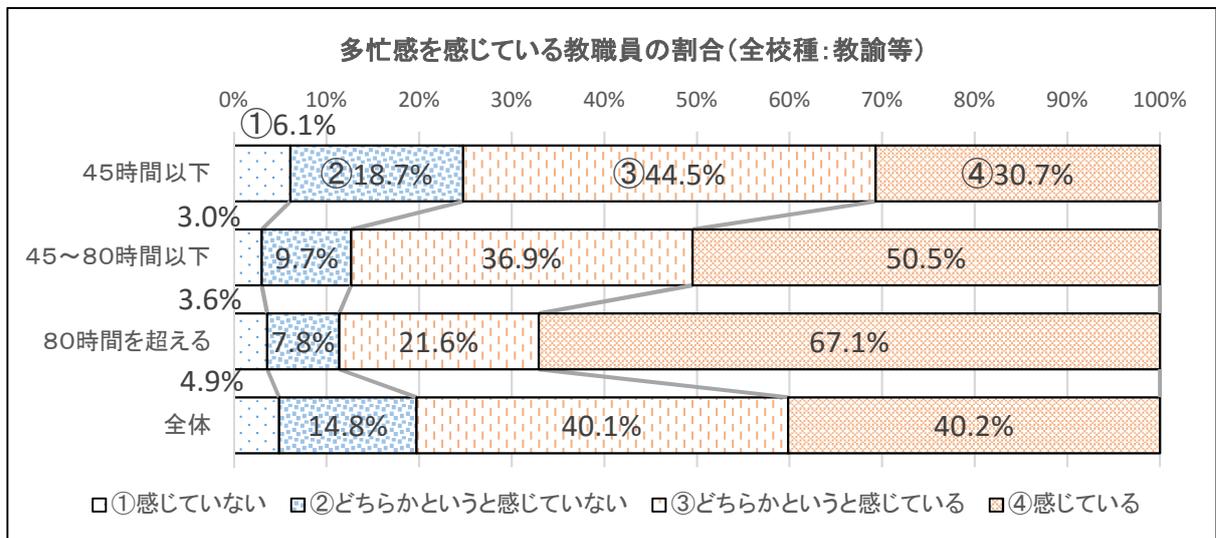
業務に「多忙感」を感じている教職員の割合は80%であり、令和3年7月に比べ1ポイント減少したが、昨年度同月比では、8ポイントの増加であった。（資料C）



資料C 業務に多忙感を感じている教職員の割合（全校種：全職種）

②多忙感を感じている教諭等の割合と時間外在校等時間の関係（※データ編P6参照）

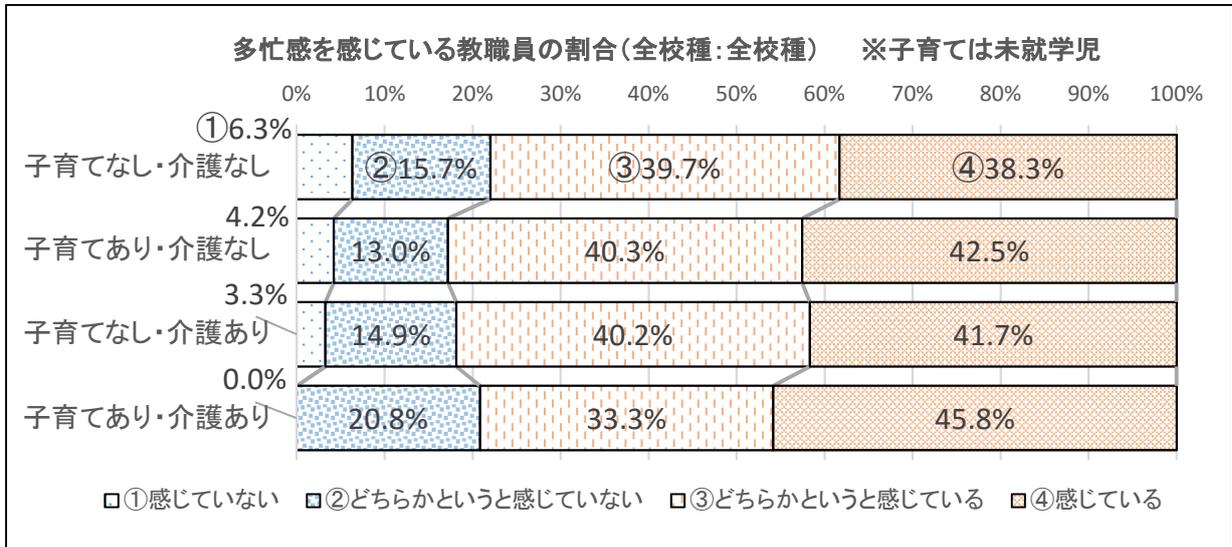
多忙感を感じていると回答した教職員の割合について、時間外在校等時間が45時間以下は約75%（前回74%）、45～80時間以下は約87%（前回89%）、80時間超は約89%（前回89%）となっている。（資料D）



資料D 多忙感を感じている教諭等の割合と時間外在校等時間の関係（全校種：教諭等）

③多忙感を感じている教職員の割合と子育て・介護の関連（※データ編P7参照）

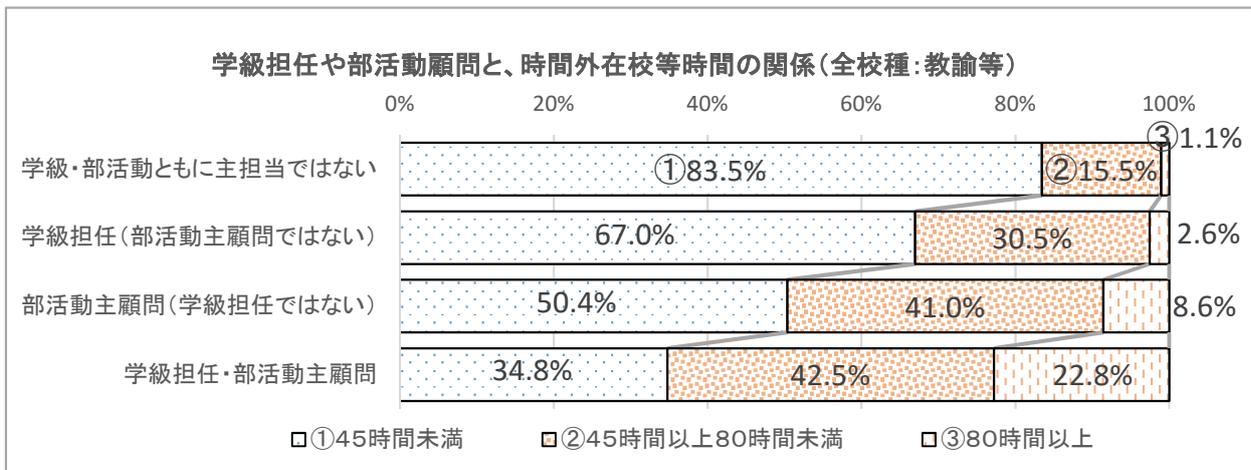
多忙感を感じていると回答した割合については、子育て・介護を担っていない場合でもおよそ80%が負担感を感じている。（資料E）



資料E 多忙感を感じている教諭等の割合と子育て・介護の関係（全校種：全職種）

④学級担任や部活動顧問と、時間外在校等時間の関係（※データ編P8参照）

学級と部活動の両方で主担当をしている場合は、約65%が時間外在校等時間45時間を超えており、約23%が80時間を超えている（資料F）。部活動の主顧問と学級担任のうち、どちらかを担当している場合では、担当していない場合に比べて、多忙感を感じている割合が高く、部活動の指導技術と、多忙感（負担感）にも相関がみられる（データ編P8の資料16・17を参照）

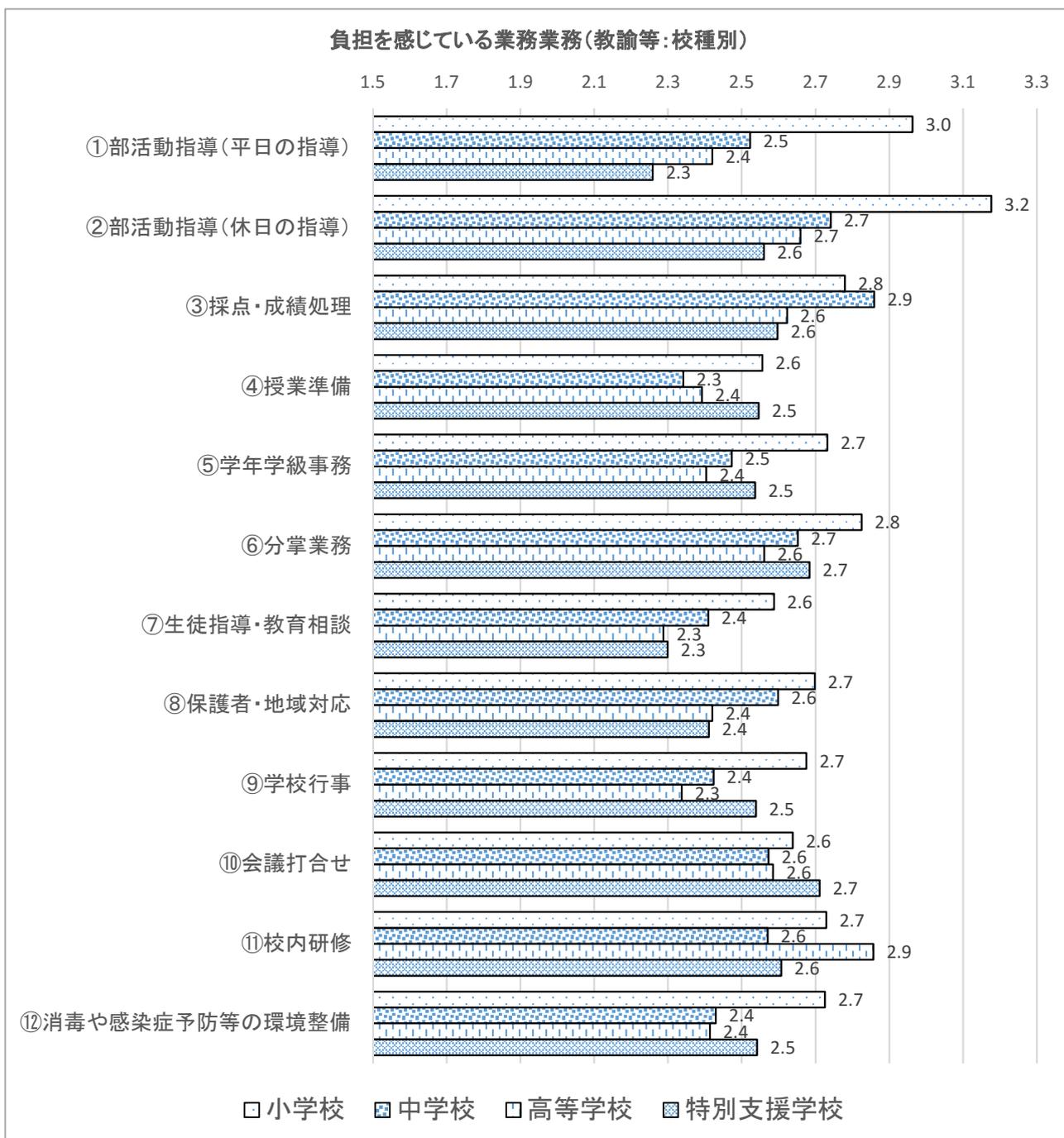


資料F 多忙感を感じている教諭等の割合と学級担任・部活動主顧問の関係（全校種：教諭等）

### 【各業務についての負担度（教諭等）】

「①部活動指導（平日の指導）」、「②部活動指導（休日の指導）」については、小学校において3以上の高い値を示している。校種ごとに比較すると、小学校では、「⑥分掌業務」、「⑫消毒や感染症予防等の環境整備」、中学校では、部活動指導の他に「③採点・成績処理」、高等学校は「⑪校内研修」、特別支援学校は「④授業準備」、「⑩会議打合せ」、「⑫消毒や感染症予防等の環境整備」に負担感が大きい傾向がある（資料G：下記の1～4を選択して回答）。

1：全く負担でない 2：あまり負担に感じない 3：少し負担に感じる 4：大いに負担に感じる

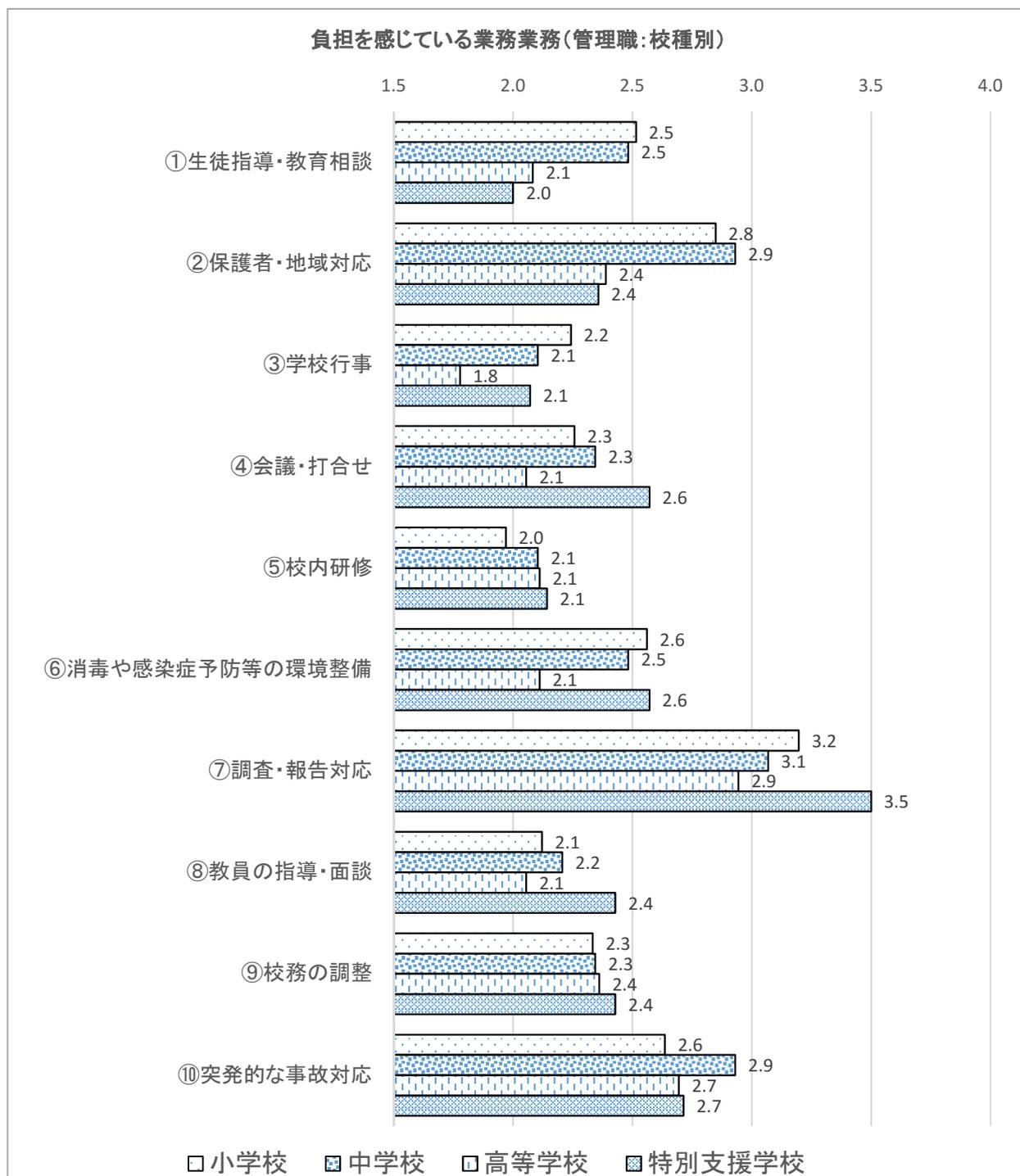


資料G 負担を感じている業務（教諭等：校種別）

### 【各業務についての負担度（管理職）】

「⑦調査・報告対応」は全ての学校種で高い。小中学校では、「②保護者・地域対応」、  
「⑩突発的な事故対応」、特別支援学校では「⑨校務の調整」が高い。（資料H：下記の  
1～4を選択して回答）。

1：全く負担でない 2：あまり負担に感じない 3：少し負担に感じる 4：大いに負担に感じる



資料H 負担を感じている業務（管理職：学校種別）